

令和7年度
事業計画書

しらとり保育所

目 次

1 事業運営計画-----	P1
2 実施施策の令和7年度行動計画-----	P2
(1) 職員が働きやすくやりがいを感じられる職場づくり-----	P2
(2) 利用者の生活を支えるサービスの質の向上-----	P4
(3) 安定的で持続的な経営基盤の確立-----	P7
3 目標利用率-----	P11
4 固定資産物品購入計画-----	P11
5 修繕計画-----	P11
6 大規模修繕計画-----	P11

1 事業運営計画

事業の種類及び利用定員				
1	保育所事業	90名		
2	一時預かり事業			
運営方針				
<p>(1) 子どもの最善の利益を考慮し、安心安全を支える保育所づくりに努めるものとする。</p> <p>(2) 家庭との緊密な連携の下に、所児の状況や発達過程を踏まえ、施設における環境をとおして、養護及び教育を一体的に行うものとする。</p> <p>(3) 家庭や地域との連携を図りながら、保護者に対する支援及び地域の子育て家庭に対する支援等を行うものとする。</p> <p>(4) 専門的知識、技術及び判断をもって保育し、保護者に対する保育に関する指導を行うため職員の専門性の向上に努めるものとする。</p>				
職種別職員配置				
保育所				
職種	正規職員	準職員	非常勤職員	合計
所長	1			1
副所長	1			1
主任保育士	1			1
保育士	8	10	3.6	21.6
看護職員			0.8	0.8
事務職員			0.8	0.8
調理員	1	1	2.1	4.1
用務員			1.2	1.2
合計	12	10	8.5	31.5
縣市町村等からの受託、補助事業等				
1	松江市特別保育事業			
2	私立認可保育所等年度中途児童受入対策事業			
3	障がい児保育対策事業			
地域における公益的な取組				
1	近隣の子育て家庭への交流の場の提供と助産師との連携による相談支援を目的とした保育所開放「なかよし広場」の実施			
2	和太鼓演奏を通じた「なごやか寄り合い」や福祉施設の利用者との交流会の実施			

2 実施施策の令和7年度行動計画

(1) 職員が働きやすくやりがいを感じられる職場づくり

ア 福祉・介護業界のイメージアップを図り、多様な働き方を推進する。

実施施策	働きやすい職場と人材確保
取組の方向性①	ハローワークや保育人材バンクと連携しながら情報収集を行う。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 職員体制に合わせてハローワーク、福祉人材センターに随時求人を出す。(継続) 広報活動により当所をアピールするとともに、定期的に関係機関と連絡を取り求人状況の確認を行う。(継続)
取組の方向性②	実習生の受け入れを計画的に行う。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 各養成校と連携を深め、積極的に実習生の受け入れを行う。(継続) 高校や中学校の職場体験の受け入れを積極的に行う。(新規)
取組の方向性③	職員一人ひとりがやりがいを感じて業務に当たることができるよう、働きやすい環境づくりを進めていく。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 新任職員の指導担当者を決め、気軽に相談したり支えたりすることができるよう定期的に話す機会をもつ。(継続) 所長、主任保育士が中心となって日頃から職員一人ひとりの気づきや良さを認める声かけを行う。(継続) 相談の機会を確保するため、所長との面談を実施する。(年2回)(継続)

実施施策	広報活動の強化
取組の方向性①	求人状況に合わせ、幅広い視野で広報活動をする。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 効果的な求人情報となるよう、働く職員の雰囲気や写真が伝わる写真をインスタグラムに定期的に掲載する。(年3回)(継続)
取組の方向性②	ホームページを随時更新し、保育所の魅力を発信していく。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 入所希望者等に興味を持ってもらうことができるよう、ホームページの構成を検討し見直す。(8月)また、掲載情報や写真を新しいものに更新する。(年4回)(継続) 保育所の魅力を発信する手立てとして、地域のイベント等に積極的に参加する、テレビ各局や新聞社等へ取材を依頼するなど、多方面に働きかける。(継続)

イ OJT 制度を中核に職員一人ひとりを育成し、チームケアを推進する。

実施施策	チーム保育の確立
取組の方向性①	職員全体がチーム保育について共通意識をもって取り組むために、保育所の研究目標を明確に設定する。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> チーム保育の大切な一員として地域とのつながりを大切にし、地域の

	人との交流や地域資源の活用を進める。(継続)
取組の方向性②	チーム保育の意義を職員全体で共有しながら「地域資源」を活かした保育となるよう、職員が主体となって取り組み、研究を充実させる。
行動計画	・ 地域の人と交流する意図を認識したうえで、所外保育や行事等を検討し、幅広く「地域資源」を活用する。(継続)

実施施策	主体的な職員研修の実施
取組の方向性①	保育士キャリアアップ研修等、様々な分野の研修に計画的に参加する。
行動計画	・ 年度当初に研修計画を作成し、計画に沿って職員を研修に派遣する。(継続) ・ 様々な研修に職員が参加できるよう、リモート研修や動画配信等を有効活用し、学びの機会を確保する。(継続)
取組の方向性②	外部講師を招いた実践的な研修を継続して組み入れ、多くの職員が学ぶ機会をもつ。
行動計画	・ 様々な専門分野(食育・自然環境)の講師に指導を依頼し、保育に活かすことのできる実践的な研修を実施する。(変更)
取組の方向性③	所内研修において、各年度で担当者を中心に取組方法を検討し、全職員が一体となって主体的な学びや積極的な参加となるよう計画する。
行動計画	・ 職員が主体的に学べるように、職員を講師としグループワークを中心に参加型の研修を行う。(継続)

ウ 職場風土を改善し、職員の定着率とモチベーションを高める。

実施施策	コミュニケーションの活性化
取組の方向性①	副主任保育士やチーフを中心に個々の担当業務の進捗状況を把握するとともに、ホワイトボードで業務の「見える化」をし、職員一人ひとりが協働する意識をもつ。
行動計画	・ 抱えている業務内容や期限を各自が表示するなど、ホワイトボードを有効活用し、業務の見える化の定着を進める。(変更)
取組の方向性②	ハラスメント防止の研修に参加したりそれを復命したりすることでハラスメントに対する意識を高め、互いの気持ちを言い合える職場内の雰囲気作りをする。
行動計画	・ ハラスメント防止のため、カスタマーハラスメントについての所内研修を実施する。(変更)
取組の方向性③	意見交換会やレクリエーションなど継続して実施することで、職場内のコミュニケーションを活発にし、円滑な関係性を作っていく。
行動計画	・ 活発にコミュニケーションをとることができるよう、意見交換会やレクリエーションを実施しチーム力を強化する。(年1回)(変更)

実施施策	職員の意識改革
取組の方向性①	職員一人ひとりの学ぶ姿勢を向上させ、業務に取り込む視点をもつ。
行動計画	・ 新しい時代の保育ニーズに即した柔軟な考え方を学ぶため、公開保育等様々な研修に参加し保育や業務改善に反映させる。(継続)
取組の方向性②	保育の中で大切にすべきことを職員間で共有するとともに、改善点を協議していく。
行動計画	・ 保育食育検討会にチーフ以外の職員も参加し、保育を語る時間を設ける等内容を工夫して実施する。(継続)

エ 業務の生産性を高め、ワークライフバランスを推進する。

実施施策	ICT化の推進
取組の方向性①	ICT化推進検討チームで、利用者への影響を考慮した上で、ICT化できる部分を検討し推進する。
行動計画	・ 写真を効率的に活用できるよう、スマートホン等の購入や活用方法を検討する。(新規) ・ 保護者への配布文書のICT化を進める。(新規)
取組の方向性②	集中して保育事務にあたる時間と場を確保していく。
行動計画	・ 「ノンコンタクトタイム」を確保していくため、状況に合わせて合同保育や職員勤務体制を見直す。(変更)

実施施策	心身の健康管理
取組の方向性①	働き方について考え、より休暇の取りやすい雰囲気となるよう職員全体でワークライフバランスを推進していく。
行動計画	・ 自分のライフステージをイメージし、働き方や休暇の取り方を職員間で語り合うことで、ワークライフバランスについて考える機会をもつ。(継続)
取組の方向性②	職員一人ひとりがメンタルヘルスについて理解を深め、心身の健康管理について意識を高め充実させる。
行動計画	・ 職員のメンタルヘルス研修を実施する。(年1回) (継続)

(2) 利用者の生活を支えるサービスの質の向上

ア 先進的で魅力あるサービスを提供し、サービスの質を高める。

実施施策	保育内容の質の向上
取組の方向性①	新たな保育ニーズに対応するため、研究グループを再編し、研究を充実させる。
行動計画	・ 研究テーマを新たに設定し、研究グループを中心に取り組む。新たなテーマで取り組む中で、次年度以降継続して取り組むテーマを検討す

		<p>る。(新規)</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究テーマに基づいて研究グループを再編して取り組む。職員一人ひとりが研鑽として主体的に研究に向かうことができるよう、研究グループで取り組む方向性を明確にし、職員がグループを選択してメンバーを編成する。(新規)
取組の方向性②		<p>行事のあり方を協議し、保護者の意見を反映しながら年ごとに計画する。</p>
	行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 行事のあり方を検討し、年間計画を見直して立案する。(変更) 行事におけるねらいや保育方針の伝え方を工夫して保護者に伝えていくとともに、行事ごとの振り返りを大切にし、次に活かしていく。(継続)
取組の方向性③		<p>子どもの成長段階を見通した保育計画の立案となるよう、クラス内やフロアでの話し合いをさらに深める。</p>
	行動計画	<ul style="list-style-type: none"> クラス保育に関する月ごとの振り返りの時間を確保し、翌月の保育計画に反映する。(継続) 保育検討会において各クラスの保育について月ごとの振り返りと翌月の方向性を話し、全体で共有する。(継続)

実施施策	個別の保育的ニーズの保障	
取組の方向性①	インクルーシブ保育に関する研修に参加し、クラス運営に活かしていく。	
	行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 全職員を対象に、インクルーシブ保育に関する研修を実施する。(年1回) 現状に応じた保育的ニーズのある内容を盛り込む。(継続)
取組の方向性②	職員が相互講師となり主体的に研修を実施する中で、職員間で学びを共有していく。	
	行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 園内散歩など互いを認め合う場を設け、所内で職員同士が主体的に学ぶ。(変更)
取組の方向性③	一人ひとりの子どもの育ちについて個人懇談や支援会議を行い、細やかな保護者支援を行う。	
	行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 保育検討会に併せて所内支援会議を実施し、タイムリーに所内全体で個別の支援方法を探る。(変更) 個人懇談を実施し、保護者の思いを傾聴し寄り添いながら相談に乗る。(継続)

イ 安全安心で快適な暮らしを保障し、利用者の満足度を高める。

実施施策	社会的背景に応じたリスク管理	
取組の方向性①	各種危機管理マニュアルを周知し、現状に合わせて見直す。	
	行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練に合わせ安全計画の内容や各種危機管理マニュアルの読み合わせを行い、内容を見直す。(継続) 予告しない状況での訓練や、近隣施設と連携した訓練、大地震や水災

	<p>害、不審者対応等、現状に合わせて実際起こり得る想定を盛り込んだ訓練を計画する。(変更)</p> <ul style="list-style-type: none"> 不適切な養育や不適切な保育について保育者自身が振り返る機会となるよう所内研修を行う。(継続)
取組の方向性②	<p>保育所生活の中で、子どもの成長や発達を支えることと、けがや誤飲等のリスクを回避し安全を確保することのどちらが子どもにとって最善であるか、職員間で協議するとともに保護者への理解を図る。</p>
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> リスク管理検討委員会において毎月ヒヤリハットを検証、3 か月ごとに事故を分析し、事故防止を強化する。(変更) けがの傾向から、予防につながる運動遊びを提案し保育に取り入れる。(新規) 交通事故、熱中症のリスク、誤嚥事故、生命の安全教育等について朝の集いの計画に盛り込み子どもたちに指導する。様々な教材を活用して保護者への理解も図っていく。(継続)

実施施策	<p>保育環境の改善</p>
取組の方向性①	<p>安全性を重視するあまり子どもの主体性を削いでしまわないよう環境づくりを見直す。</p>
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ものを大切にする気持ちを育むため、職員が SDGs についての意識を高め、共通意識を持って折り紙の使い方を考える等、子どもにも伝えみんなで行って行く。(継続) 手作り玩具の修繕、製作を計画的に行う。(継続)
取組の方向性②	<p>共有スペースの活用について職員間で検討することで、子どもの生活や遊びの様子に合わせて保育環境を充実させる。</p>
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 所庭で子どもが年間を通して自然に触れて遊ぶことができるよう、草花を計画的に植える等環境を整える。(継続) 所庭での遊びを充実させるため、職員間で話し合い可動遊具や玩具、教材や素材等を定期的に入れ替える。(継続) 共有スペースを中心に、子どもの過ごす場の清潔を維持するためクリーンタイムを実施する。(週1回)(継続)

ウ 施設機能を積極的に開放し、地域とのつながりを強化する。

実施施策	<p>地域の子育て支援</p>
取組の方向性①	<p>一時預かり保育を利用する家庭のニーズに細やかに応えるため、チラシやポスターなど PR の方法を随時見直し、子育て支援事業として進めていく。</p>
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 一時預かり保育検討チームにおいて、利用者のニーズや個々の状況を共有し、地域の子育て支援に役立つ内容を話し合う。(継続) 親子で集ったり、集団の中での子どもの育ちを見てもらったりする機

	会を設けるため、利用状況に合わせて「わくわく参観日」を企画する。(6月・10月)(継続)
取組の方向性②	保育所開放「なかよし広場」の実施方法について、社会情勢や地域のニーズに合わせて検討していく。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「なかよし広場」を計画的に実施する。(5月～12月、年12回)(継続) ・ 「なかよし広場」での保育室の活用や在所児童との交流などを検討して内容を充実させることで、保育所により親しんでもらう。(変更)

実施施策	小学校及び地域との連携の見直し
取組の方向性①	保幼小と必要な連携を図ることができるよう、各校・園・所と連絡を取り合う。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校や近隣の保育施設に研究保育を公開し、保幼小の連携を深めるとともに、他施設の公開保育等に積極的に参加する。(継続) ・ 子どもが小学校を身近に感じられるよう、近隣の保育施設と連携し小学校等に出かけ、5歳児同士や小学生と交流する機会をもつ。(継続) ・ 「保幼小架け橋プログラム」について職員間で学び、小学校とともに取り組んでいくことができるよう働きかける。(新規)
取組の方向性②	地域との交流は、交流のあり方を見直し、交流活動や意見交換会等を実施していく。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近隣福祉施設や住民を招待し、和太鼓演奏を披露する。(10月)(継続) ・ 地域に呼びかけ、避難訓練を近隣施設と合同で実施する(年1回)(新規) ・ 地域の人に勤労感謝の気持ちを伝える取組を企画し実施する。(新規) ・ 法人内の施設と交流活動を実施する。(継続) ・ 子どもが地域とのつながりを感じることができるよう、近隣の公共施設や教育機関等との交流を行う。(継続) ・ 地域住民の意見を聞くことができるよう、地域住民を対象に保育所についてのアンケート調査を実施する。(年1回)(継続)

(3) 安定的で持続的な経営基盤の確立

ア 収入の安定確保と経費増大の抑制で、安定性の高い財務体質を維持する。

実施施策	圏域の利用ニーズに基づく利用定員の弾力運用
取組の方向性①	利用可能な各種補助金や加算の制度について情報収集し、活用することで収入確保につなげる。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 収支を安定させるため、補助金について情報収集し活用する。(継続) ・ 関係機関と連携を取りながら、現状に合わせて可能な加算を利用できるよう検討する。(継続)
取組の方向性②	年々変わる制度や圏域の変化に速やかに対応できるよう情報収集を行うこ

	とにより、年度ごとに内部の体制を調整していく。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 月ごとの入所児童の受け入れを積極的に行い、入所児童を確保する。(継続) ・ 松江市からの不承諾者数や入所可能枠数の情報を元に、各年齢の入所児童数を確保する。(継続) ・ 利用状況に応じて募集年齢枠の変更、保育室の環境の見直しなどを検討する。(継続)

実 施 施 策	一時預かり保育事業の見直し
取組の方向性①	計画的に受け入れる人数を確保するとともに、年度ごとに経営状況に合わせた職員の配置を検討する。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期的に利用者数や地域のニーズを分析し、月ごとの受入人数の目標を設定する。(継続)
取組の方向性②	一時預かり保育を利用する家庭のニーズに細やかに応え、地域の子育て支援を推進し、選ばれる施設となるよう PR 活動を継続する。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一時預かり保育担当者と利用希望者の受け入れ状況や保育内容等を検討チームで協議する。(継続) ・ ポスターやチラシ、ホームページなどの広報を活用し、一時預かり保育についての PR を拡げる。(継続) ・ 子育てに悩みを抱えている家庭には積極的に働きかけ、保健師と連携を図る等子育て支援を進める。(継続)

イ 中長期的な視点をもって、持続性の高い経営を行う。

実 施 施 策	施設の修繕と維持管理
取組の方向性①	月 1 回の安全点検に加え遊具の自主点検を行い、早期に危険箇所を発見し修繕する。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遊具の自主点検を定期的に行う。(4月)(継続) ・ 日々の業務の中で気づいた危険箇所をヒヤリハットに挙げて共有し、安全性について意識する姿勢をもつ。(継続)
取組の方向性②	修繕にあたっては計画の段階から業者と連携を密にして実施する。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 将来を見通し利用者も職員も使いやすい環境となるよう、事務局と連携し大規模修繕の計画に反映する。(継続) ・ 自主点検の結果に問題がある場合には、早急に業者と修繕の時期や内容等の打ち合わせを行い、対応する。(継続)
取組の方向性③	所庭遊具については専門業者による点検を継続して実施し、点検結果をもとに計画的に修繕や更新を検討する。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外部の委託業者に所庭遊具や設備の点検を依頼し、定期的実施する。(10月)(継続)

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所庭遊具の安全性について、点検結果を職員間で共有した上で安全に遊ぶことのできる環境を保つ。(変更)
--	---

実 施 策	備品の管理と計画的な整備
取組の方向性①	備品のリストを更新し定期的にチェックする。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 備品リストを担当者が定期的にチェックし、変更点があれば修正する。(継続) ・ 日頃から整理整頓しやすくするよう、教材庫、押し入れ、所庭等、年間行事に合わせて計画的に環境整備を行う。(年6回) (継続)
取組の方向性②	担当者を中心に、計画的な備品のメンテナンスにつなげる。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 場所ごとに担当者を決め、備品の状態や劣化を把握する。(継続) ・ 備品リスト及び取扱説明書のファイルを階ごとに管理し、活用する。(継続) ・ 購入した備品や廃棄予定の物について職員間で共有し、有効に活用する。(新規)

ウ 組織内の連携を強化し、強固な組織体制と経営基盤を確立する。

実 施 策	法令遵守の徹底
取組の方向性①	関係法令の遵守について自己評価していくとともに、職場内で啓発していくことで日頃から意識して取組を更に強化する。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人権や個人情報保護に関して、職員一人ひとりが常に意識していけるよう、最新の情報を周知する。(継続) ・ 人権擁護のためのチェックリストや自己評価表を使用し、セルフチェックを定期的に行う。(年3回) (新規) ・ 重要事項説明書について、年度前半に職員で内容の読み合わせを行う。(継続)
取組の方向性②	制度改革の動向について所内で検討し、法人本部の意見も聞きながら判断して安定的な経営につなげていく。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安定的な経営をしていくため、行政や近隣保育施設の情報を収集する。(継続) ・ 各事業の具体的な収支状況や制度改革の動きについて経営企画会議で情報共有する。(継続)

実 施 策	所内の連携強化
取組の方向性①	副主任をミドルリーダーとして位置付けることで内部の連携を強化する。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員一人ひとりが協働する意識を持ち、報告、連絡、相談を細やかに行う。(継続) ・ ミドルリーダーとして視野を広く持ち、クラスの体制や業務に応じて

	声かけを行う。(継続)
取組の方向性②	チームで取り組むべき課題が発生した時には、検討チームを立ち上げ、職員一人ひとりが役割をもって課題解決に取り組む。
行動計画	・ 一時預かり事業検討チーム・自己評価検討チームにおいて、意見を幅広く集め、会議等で内容を全職員に周知し共有する。(継続)